

# 「弱さと聖潔」

## ローマ6：19

堀田修一 23・3・12

### I 「私たちの肉の弱さ」

「あなたがたの肉の弱さのために、私は人間的な言い方をしています」：19。

1. ここで言われている「弱さ」とは、霊的な理解力の弱さ。霊的な真理を理解する弱さ。これは、聖書が罪について、墮落のせいで罪の中に陥った人間について語るきわめて重要な教理。墮落前のアダムは神と親しく交わることができたが、神に背き墮落し罪が入り込んだ瞬間に、人間は霊的な真理、物事を神の視点で正しく理解する力を失ってしまった。これは聖書の教えの中では決定的に重要な問題の一つ。これについて、Iコリント2章で詳しく説明されている。「私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神からの霊（御聖霊）を受けました。それで私たちは、神が私たちに恵み（救いの恵み、聖書の真理の恵み）として与えてくださったものを知る（理解できる）のです。それについて語るのに、私たちは人間の知恵によって教えられたことばではなく、御霊に教えられたことばを用います。その御霊のことば（御霊が教えて下さることば）によって御霊のこと（御霊が聖書記者を用いて記された聖書の真理）を説明するのです。生まれながらの人間は、神の御霊に属すること（聖書の真理、神・罪・救いの真理）を受け入れません。それらはその人には愚かなことであり、理解することができないのです（私たちも皆、御聖霊により主を信じる前まではそうだった）。御霊に属すること（聖書の真理、神・罪・救いの真理）は御霊によって判断する（わきまえる）ものだからです」（2：12－14）。御聖霊による聖書の真理の理解の恵みを「御霊の照明」と言う。聖書の正しい教えは、人は全員、罪人であり全員、霊的に盲目であり、誰もが御霊の照明（霊的に盲目的な私たち人間に真理が理解できるように御聖霊に心を照らしていただき、真理を説き明していただく）を必要としている。一人残らず！しかし、すべての人に等しい望みがある。何という「福音」（良き知らせ）だろう！これまで、世界の歴史の中で最大の哲学者も自分の知識では、聖書の真理、福音を理解できなかったが、ある国の奥地にいる読み書きの出来ない人々が、福音を聞き、御霊の照明により心で理解し、主を信じ救われて来た。罪人である人間が、福音、聖書の真理を理解しイエス様を信じるのは、最大の奇跡である。三位一体の神の奇跡の恵みである。霊的に盲目だった私たちに聖霊が与えられ、心に光、照明が与えられ、福音を理解し主を信じる事が出来た恵みを心から感謝し、「主の祈り」でも、まず心から神を崇めましょう！
2. 聖書の理解力の弱さは、そのまま続くのではなく、私たちが、聖霊の満たしと聖書を深く理解できるように祈り聖書を読み味わい、教会の祈りに支えられ教会のわざとしての聖書の真理の説き明かしである説教を聞き味わうときに、神は聖書の真理の理解力を増し加えられ、私たちが霊的に成長させ続けて下さいます。「私たちの主であり、救い主であるイエス・キリストの恵みと知識（聖霊の照明により神と聖書の真理をもっと深く知る知識）において成長しなさい」Ⅱペテロ3：18。

## Ⅱ 聖潔（聖さ、自分を神に献げ神のために取り分け神に用いていただく）に進む

「以前あなたがたは、自分の手足を汚れと不法（神の律法、みこころに背く）の奴隷として献げて、不法に進みました。同じように、今はその手足を義の奴隷として献げて、聖潔（原語：聖い状態、聖別、神のご用のために取り分ける）に進みなさい」：19。ここでの「手足」とは、人の肉体の各部分だけではなく、私たちの知性、感情、意志等のすべてを含んでいる。16節には、「自分自身」を奴隷として献げてとある。主を信じる以前は、自分のすべてを汚れと不法に献げ進んだが、主に救われ、罪の赦しと新しいいのちと御聖霊をいただいた今は、自分を義の奴隷（しもべ）として献げて、主の聖さに進みなさい。

1. 神の素晴らしい救いの3つの面を確認したい。①義認（主を信じ罪を赦され、神の前に無罪正しいと認められる。聖霊による新生。新しい命をいただく。これは、神により瞬時に起こる恵み）②聖化（主を信じ、聖霊が心に宿られ、主の品性、聖さに日々、変えられ続ける。これは、瞬時ではなく、継続的な神の恵み）③栄化（世の終わりの主の時に、主イエスとお会いする時に瞬時に主の栄光に輝くからだと同じ姿に変えられる）。ピリピ3：21。
2. 神の聖さ（主の品性）に進み続ける秘訣。聖潔、聖さとは、内側が聖く、心において聖く、生き方において聖く、神に献身し（神学校に行くことだけが献身ではない。それぞれ神が与えられた職場、仕事で自分を神に献げ、神の栄光を現す献身の歩みがある。神の召し、賜物に應じて）、神のご性質、主の品性（愛、聖さ、謙遜、仕える心）に日に日に似た者となり、神のために自分を取り分け神のご用に用いていただくことを意味する。私たちが聖め、日々、主の品性（愛、聖、誠実、柔和、謙遜）に変えるもの。
  - ①命ある主のみことばで聖められ続ける。「あなたがたがわたしにとどまり（霊的につながり）、わたしのことばがあなたがたにとどまっている（みことばをこころにとどめ味わい思い巡らす）なら、何でも欲しいもの（主の聖さ、品性）を求めなさい」ヨハネ15：7。「すべての悪意、すべての偽り、偽善やねたみ、すべての悪口を捨てて、生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、霊の乳（みことば）を慕い求めなさい。それによって成長し、救い（義認・聖化）を得るためです」Ⅰペテロ2：1，2
  - ②聖化は、聖さだけではなく、主の品性に変えられ続ける恵み。御聖霊の満たしを求め頼み続ける。「私たちはみな…主の栄光（御性質：聖さ、愛、謙遜）を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていきます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです」Ⅱコリント3：18
  - ③主にある「聖さ」を求める動機が大切。「神に喜ばれるため」か「人目を気にし、人から立派なクリスチャンと思われるためか」。人の目を気にしての聖い表面的な行いは真の喜びがなく人と比べ高ぶり、ある人を心の中で見下げるようになる。その高ぶりで見下す心は大きな罪。「あなたは、兄弟の目にあるちり（小さなあやまち、欠点）は見えるのに、自分の目にある梁（大きなあやまち、大きな欠点）には、なぜ気づかないのですか」マタイ7：3。「聖さ」を求める純粋な動機＝「神に喜ばれるために…ますますそうしてください。…神のみこころは、あなたがたが聖なる者となることです」Ⅰテサロニケ4：1，3。

- ④ある汚れや不正、不法や詐欺等の悪い集団から抜け出せても、そのままだと、またもとの悪い集団のメンバーに見つかり悪に引き戻される。ある信頼できる愛し合う交わりに加入し、互いに支え合うことが大切である。それが教会の主を中心とした愛と聖い交わりである。「あなたがたは…互いに励まし合い、互いを高め合い（愛と聖さに成長し）なさい」Ⅰテサロニケ5：11。「二人か三人がわたしの名において集まっている（みことばを分かち合い、感謝と課題を祈り合う交わり）ところには、わたしもその中にいます」マタイ18：20。
- ⑤「霊の父は私たちの益（主の御姿、品性への成長）のために、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして訓練（神は耐えられる試練や神に頼ってのみ対処できる困難を与え愛する故に私たちを鍛えられる）されるのです。すべての訓練は、そのときは喜ばしいものではなく、かえって苦しく思われるものです（このみことばに慰められる）が、後になると（神の 때가 熟すると、振り返ると）、これによって鍛えられた人々に、義（神との正しい関係）という平安の実を結ばせます」ヘブル12：10，11。
- ⑥「もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます」Ⅰヨハネ1：9。「御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます」1：7。

祈り：私たちが赦し聖め、主の愛、聖、謙遜な品性に変え続けてください。